



本校は、2009年に西日本第1号の国際バカロレア（IB）DP認定を受けた一条校で、生徒はグローバル社会のリーダーを目指し、学内外で様々な活動に取り組みます。

## 祝 高校女子サッカー一部始動1年目で選手権全国大会出場



0-1で惜敗

修徳高校はその後ベスト4まで進出

高校女子サッカー部は、1月3日「いぶきの森球技場」（神戸市）において、第28回全日本高等学校女子サッカー選手権全国大会の初戦に臨みました。第3シードの東京の修徳高校との対戦は、前半は防戦一方になりながらも、何とか0-1で折り返し、後半の反撃に望みを託しました。後半は、攻撃にもリズムが出始め、何度か好機を演出する場面もありましたが、残念ながら0-1のままタイムアップを迎えてしまいました。敗戦はしたものの、選手たちは、確実に来年への手ごたえを感じたものと思います。年始にも関わらず、応援に駆けつけてくださった100名を超える皆様方、本当にありがとうございました。

みんなでこのマフラータオルを振って応援しました。⇒

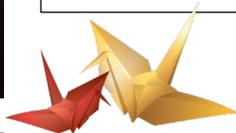


## NZからの修学旅行生と高1生17名が交流@平和記念公園



折り鶴の  
折り方レクチャー

高1の生徒17名が、NZから広島を訪れたWAITARA SCHOOLの生徒と、平和公園で交流しました。平和祈念資料館を案内したあと、いくつかのグループに分かれて公園内の記念碑を巡りました。その後、折り鶴タワーの会議室に場所を移し、被爆地広島についてのプレゼンテーションを英語で行いました。折り鶴の折り方も英語で丁寧に説明を加えながら、全員で折り鶴を完成させました。



大変貴重な体験ができました



NZの民族舞踊ハカを  
披露してもらいました



折り鶴タワーから  
見た原爆ドーム

## 広島ジュニア国際フォーラムフィリピン研修に2名が参加



本校の生徒2名が「グローバル未来塾inヒロシマ」の活動の一環として、フィリピンでの研修に行ってきました。現地の高校生との交流、遺跡巡り、日本に占領されていた島そして、JICA等NGOの訪問を行いました。



スラム街で  
のーコマ



### 《参加者の一人である高1松村くんの感想から》

スラム街で出会った子どもたちの目には確かな意思の強さと希望を感じました。現地の高校生たちも、目の前の貧困問題を解決することは、自分たちの使命であることを口にしていました。決してPoor=Unhappyではないこともわかりました。貧しい生活を送る子どもたちの瞳に宿る光を消さないために、自分にできることを改めて考えさせられました。今回の全ての行程どれもが僕らの心を大きく揺さぶるものでした。

# World Scholar's Cup(WSC)九州ラウンド チーム総合2位



大会キャラクターのアルパカぬいぐるみ



## 《WSCとは》

世界中の中高生が総合的な教養を競い合う、アカデミックな大会です。2006年に韓国で始まり、以降世界各国で50以上の国内大会が開かれ、現在では世界中で2万人近い学生が参加しています。大会は3人1組で一チーム、**使用言語は英語のみ**です。科目数は6教科に及び、年初めに発表される各科目のスタディーガイドに基づいて、各自がリサーチをし、ディベート・エッセイ・ペーパーテスト・クイズの4種目の総得点を競います。各国で行われ国内大会を勝ち越したチームは世界大会の参加資格を得ることができ、そこで上位に入ったチームは毎年11月にイェール大学で行われる決勝大会に参加することができます。

昨年度の九州ラウンドで優勝した先輩たちの後に続けとばかりに、今年度は、高1の12名の生徒が、九州大学大橋キャンパスで行われたWorld Scholar's Cup(WSC)九州ラウンドに参加し、下記のチームが堂々の2位に入賞しました。今年度の共有リソーステーマは、「A World on the Margins」でした。



AICJの参加者全員で集合写真

いざ世界大会へ!

左の写真は「Alpaca Balance Challenge」というミニゲームをしているときのものです。一番右のショッピングピンクのアルパカをバディに奮闘しているのが高山くんです。



団体で2位入賞を果たした三村さん(左) コレディックさん(右) 保田さん(中央)



# CASプロジェクト ～動物愛護ワークショップ主催～



## 《CASとは》



IBディプロマコースでは、教科の勉強の他にCOREと呼ばれる領域があります。「TOK(知の理論)」、「EE(課題論文)」、そして「CAS(創造・活動・奉仕)」です。CASはCreativity, Activity, Serviceの略で、IBディプロマ生はIB資格取得に当たり、C, A, Sに関する取り組みを行うことが求められています。また、一定の準備期間を要する「CASプロジェクト」を仲間と企画し、実行しなければなりません。そのプロジェクトとして、IBディプロマコースの2名の生徒が、彼らの興味と関心のもと、動物愛護に関する知見を広めるため、AICJ生向けにワークショップを開催することとしました。

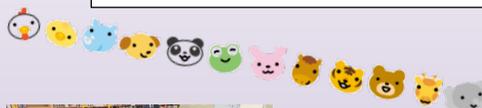
今回このプロジェクトを企画したのは高2の山下さん(写真左)と久貝さん(写真中央)です。紆余曲折はありましたが、なんとか当日にこぎつけました。まず、NPO法人SPICA代表の山下育美さん(写真右)に「いのちの教室」と題し、1時間ほど、犬猫の殺処分や動物愛護について講義をしていただきました。途中で重苦しい内容もありましたが、参加者は積極的にメモを取りながら真摯に内容を受け止めていました。



日本が動物愛護後進国である理由と解決策を参加者のグループごとに討議し、ポスターを作成・発表しました。



主催者2名が独自に調べてまとめた、海外の動物愛護に関するプレゼンテーションを行いました。



ワークショップ終了後、20名を越える参加者より、ボランティアに参加したいとの声上がり、2月に実際に呉市動物愛護センターを訪問することになりました。